

令和 8 年度 第 2 回

杉並区区政モニターアンケート
杉並区次世代育成基金について

集計結果報告書



SUGINAMI
CITY

令和 8 年 7 月実施

杉並区総務部区政相談課

〈杉並区次世代育成基金について〉

調査の概要

1 調査の目的

杉並区次世代育成基金は、皆さんからの寄附を活用し、次代を担う子ども・青少年が、国内外の交流、スポーツ、文化・芸術等の多様な事業へ参加する機会を支援する制度です。
今回のアンケートでは、基金の認知状況や、寄附・募金を考えるきっかけとなる情報発信の方法等を把握し、今後の効果的な周知、寄附者の拡大、子どもたちの体験機会のさらなる充実に役立ててまいります。

2 調査期間 令和8年7月13日～令和8年7月28日

3 対象者（区政モニター） 200 人

4 回答者数 175 人 回答率 87.5% ※各設問の回答者数は表右上にnで表示

5 回答者構成

〈年代別構成〉

単位：人

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	合計	割合
男性	0	8	13	15	22	14	7	79	45.1%
女性	1	9	18	27	18	16	4	93	53.1%
回答しない	0	0	1	1	0	0	1	3	1.7%
人数	1	17	32	43	40	30	12	175	100%
割合	0.6%	9.7%	18.3%	24.6%	22.9%	17.1%	6.9%	100%	

〈居住地別構成〉

単位：人

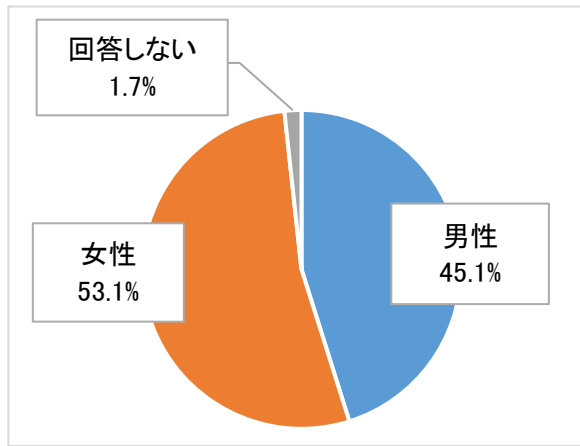
	住居表示の町名	人数	割合
井草地域	井草、上井草、下井草	15	8.6%
西荻窪地域	上荻、松庵、善福寺、西荻北、西荻南	18	10.3%
荻窪地域	天沼、今川、荻窪、清水、本天沼、南荻窪、桃井	38	21.7%
阿佐谷地域	阿佐谷北、阿佐谷南、成田西、成田東	32	18.3%
高円寺地域	梅里、高円寺北、高円寺南、堀ノ内、松ノ木、和田	23	13.1%
高井戸地域	上高井戸、久我山、下高井戸、高井戸西、高井戸東、	34	19.4%
方南・和泉地域	和泉、永福、大宮、方南	15	8.6%
合 計		175	100%

〈職業別構成〉

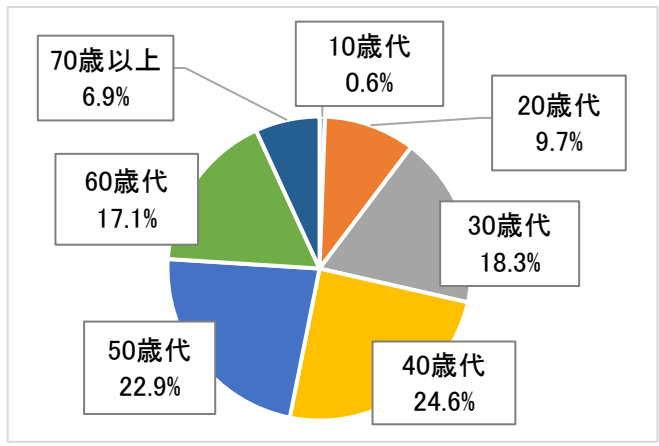
単位：人

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	合計	割合
自営業・自由業	0	0	3	3	5	9	0	20	11.4%
会社員・公務員	0	13	26	30	20	6	1	96	54.9%
臨時・パート・非常勤	0	1	1	5	4	2	3	16	9.1%
専業主婦（夫）	0	0	1	3	9	4	1	18	10.3%
学生	1	3	0	0	0	0	0	4	2.3%
無職	0	0	1	1	2	8	6	18	10.3%
その他	0	0	0	1	0	1	1	3	1.7%
合 計	1	17	32	43	40	30	12	175	100%

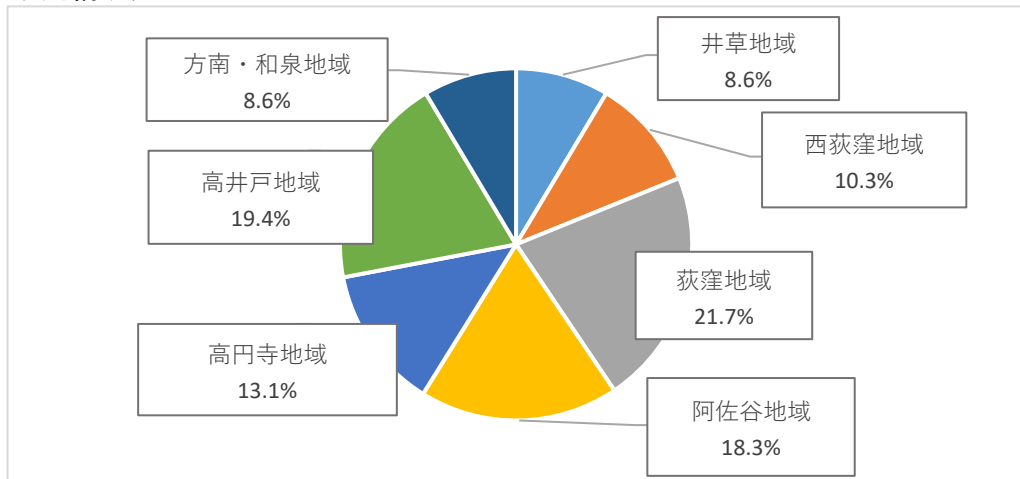
〈性別〉



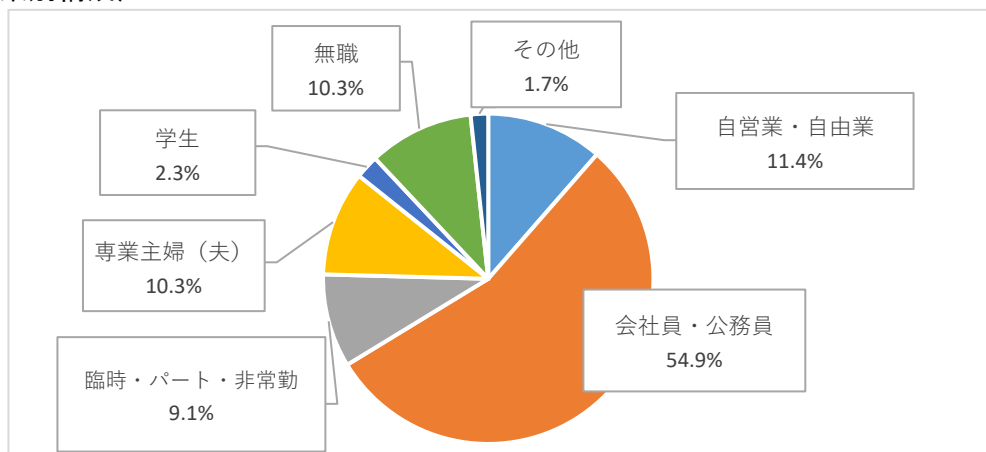
〈年代別構成〉



〈地域別構成〉



〈職業別構成〉



◆基本事項についてお聞きます。

問1 あなたの性別をお教えてください。

問2 あなたの年齢をお答えください。

問3 あなたのお住まいの地域は、どの地域にあたりますか。

問4 あなたの職業を教えてください。

※問1～問4の結果については、上記『調査の概要「5 回答者構成」』のとおり

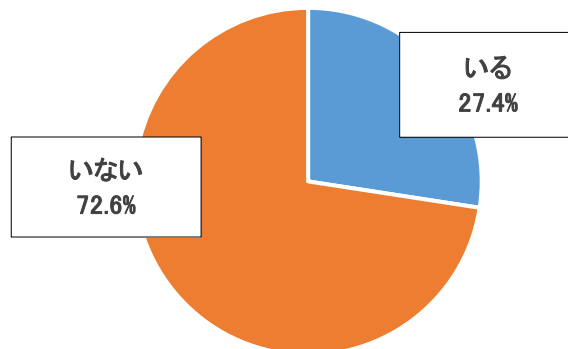
◆ 次世代育成基金について

問5 あなたの世帯に、現在、小学生・中学生・高校生の子どもはいますか。(回答は1つ)

必須

n= 175

	全体		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
いる	48	27.4%	2	33	13	0
いない	127	72.6%	16	42	57	12
合 計	175	100%	18	75	70	12

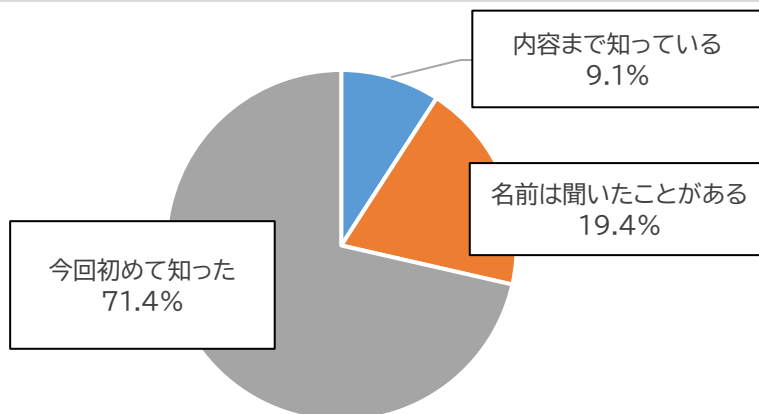


問6 杉並区次世代育成基金を知っていましたか。(回答は1つ)

必須

n= 175

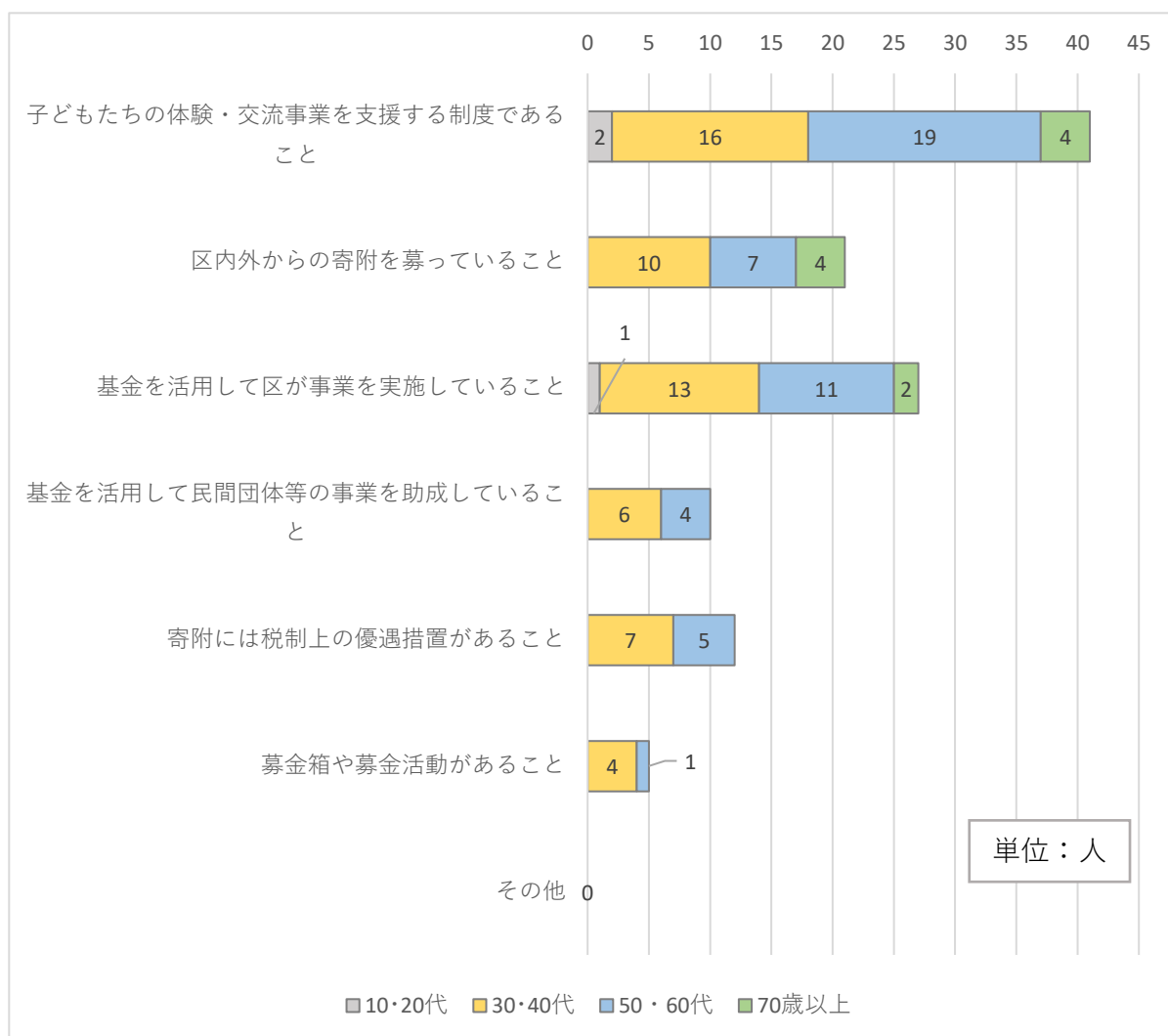
	全体		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
内容まで知っている	16	9.1%	0	9	6	1
名前は聞いたことがある	34	19.4%	2	10	17	5
今回初めて知った	125	71.4%	16	56	47	6
合 計	175	100%	18	75	70	12



問7 問6で「内容まで知っている」または「名前は聞いたことがある」を選んだ方に伺います。次世代育成基金について、知っていることを教えてください。（回答はいくつでも） 必須

n= 50

	全体		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
子どもたちの体験・交流事業を支援する制度であること	41	82.0%	2	16	19	4
区内外からの寄附を募っていること	21	42.0%	0	10	7	4
基金を活用して区が事業を実施していること	27	54.0%	1	13	11	2
基金を活用して民間団体等の事業を助成していること	10	20.0%	0	6	4	0
寄附には税制上の優遇措置があること	12	24.0%	0	7	5	0
募金箱や募金活動があること	5	10.0%	0	4	1	0
その他	0	0.0%	0	0	0	0



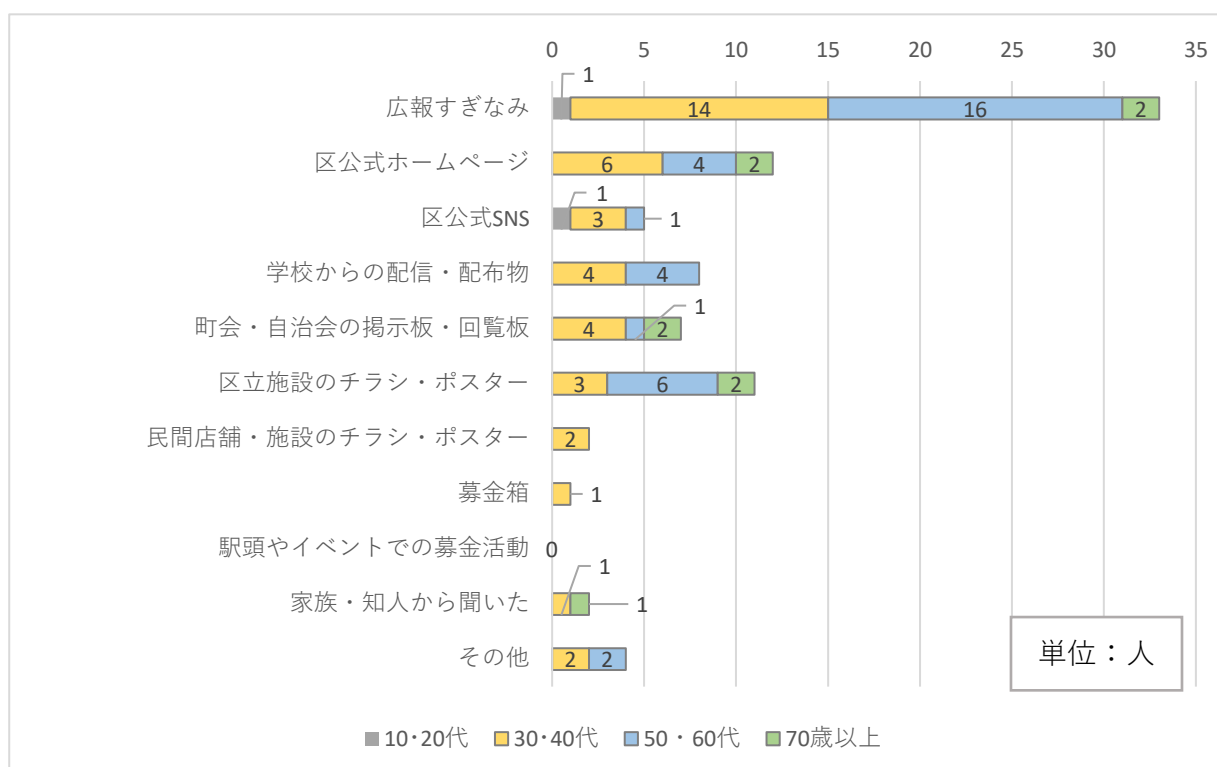
問8 問6で「内容まで知っている」または「名前は聞いたことがある」を選んだ方に伺います。次世代育成基金について、これまでに見聞きしたことがあるものを教えてください。（回答はいくつでも） 必須

n= 50

	全体		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
広報すぎなみ	33	66.0%	1	14	16	2
区公式ホームページ	12	24.0%	0	6	4	2
区公式SNS	5	10.0%	1	3	1	0
学校からの配信・配布物	8	16.0%	0	4	4	0
町会・自治会の掲示板・回覧板	7	14.0%	0	4	1	2
区立施設のチラシ・ポスター	11	22.0%	0	3	6	2
民間店舗・施設のチラシ・ポスター	2	4.0%	0	2	0	0
募金箱	1	2.0%	0	1	0	0
駅頭やイベントでの募金活動	0	0.0%	0	0	0	0
家族・知人から聞いた	2	4.0%	0	1	0	1
その他	4	8.0%	0	2	2	0

その他・・・

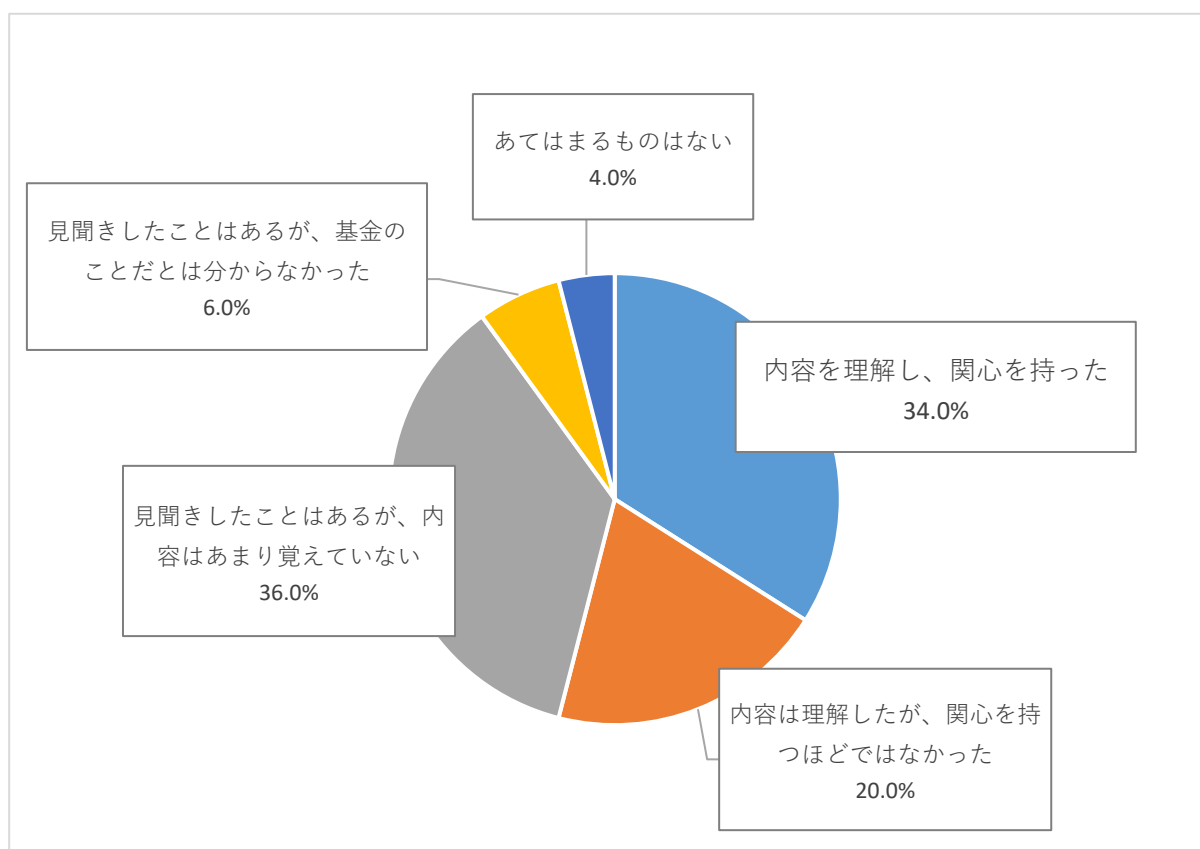
- ・子供がイベントに参加させてもらったことがあります。確か、地図のイベントと理科の内容のイベントだったと思います。
- ・メディアからの区のパンフレット
- ・ネットニュース
- ・岸本聡子区長のホームページや予算・政策発表等の記者会見など



問9 問6で「内容まで知っている」または「名前は聞いたことがある」を選んだ方に伺います。これまでに見聞きした情報は、次世代育成基金への理解や関心につながりましたか。(回答は1つ) 必須

n= 50

	全体		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
内容を理解し、関心を持った	17	34.0%	2	10	3	2
内容は理解したが、関心を持つほどではなかった	10	20.0%	0	4	5	1
見聞きしたことはあるが、内容はあまり覚えていない	18	36.0%	0	2	14	2
見聞きしたことはあるが、基金のことだとは分らなかった	3	6.0%	0	2	1	0
あてはまるものはない	2	4.0%	0	1	0	1
合 計	50	100%	2	19	23	6



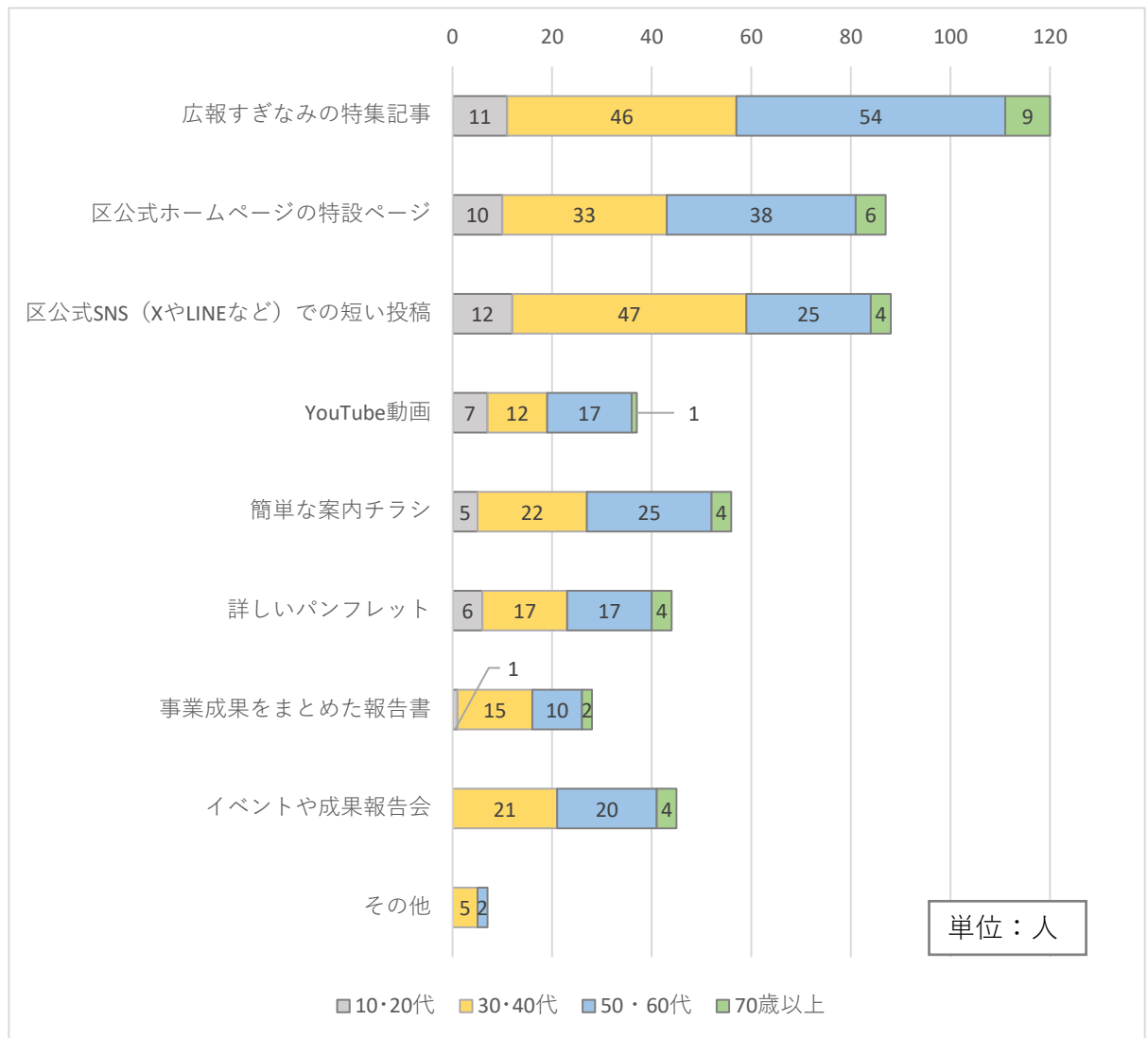
問10 次世代育成基金について、今後詳しく知るとしたら、どの方法がよいと思いますか。(回答はいくつでも) 必須

n= 175

	全体		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
広報すぎなみの特集記事	120	68.6%	11	46	54	9
区公式ホームページの特設ページ	87	49.7%	10	33	38	6
区公式SNS(XやLINEなど)での短い投稿	88	50.3%	12	47	25	4
YouTube動画	37	21.1%	7	12	17	1
簡単な案内チラシ	56	32.0%	5	22	25	4
詳しいパンフレット	44	25.1%	6	17	17	4
事業成果をまとめた報告書	28	16.0%	1	15	10	2
イベントや成果報告会	45	25.7%	0	21	20	4
その他	7	4.0%	0	5	2	0

その他・・・

- ・公的プログラムはポスター等アウトドア露出が効果的。それにSNS等デジタルを組み合わせる。規模にもよるがすべて行うべき。詳細情報と同時に、「これがあるとどうなるか」という、施策の顔が見えるようなコミュニケーションが必要。
- ・本気でやりたい人、この事業に意味があり続けていきたいという人への啓発活動。
- ・設問そのものがアバウトに感じます。どのような方にどのような情報を知ってもらい、どのような行動をとっていただきたいかによります。例えば余力のある高齢者に知ってもらうのでしたらカルチャセンターなどでの掲示になるとかでしょうか。
- ・町会の掲示板。意外とよく見ます。
- ・幼稚園・小学校・中学校などでの説明会
- ・町内会の回覧板などでの周知。お祭りや消防のイベントなどの際に一部スペースを使つての成果の報告掲示。
- ・教育関係・学校現場・公共施設・公園・商店街・まちの一角などでの定例会やイベントなどで逐次案内や報告を行う。

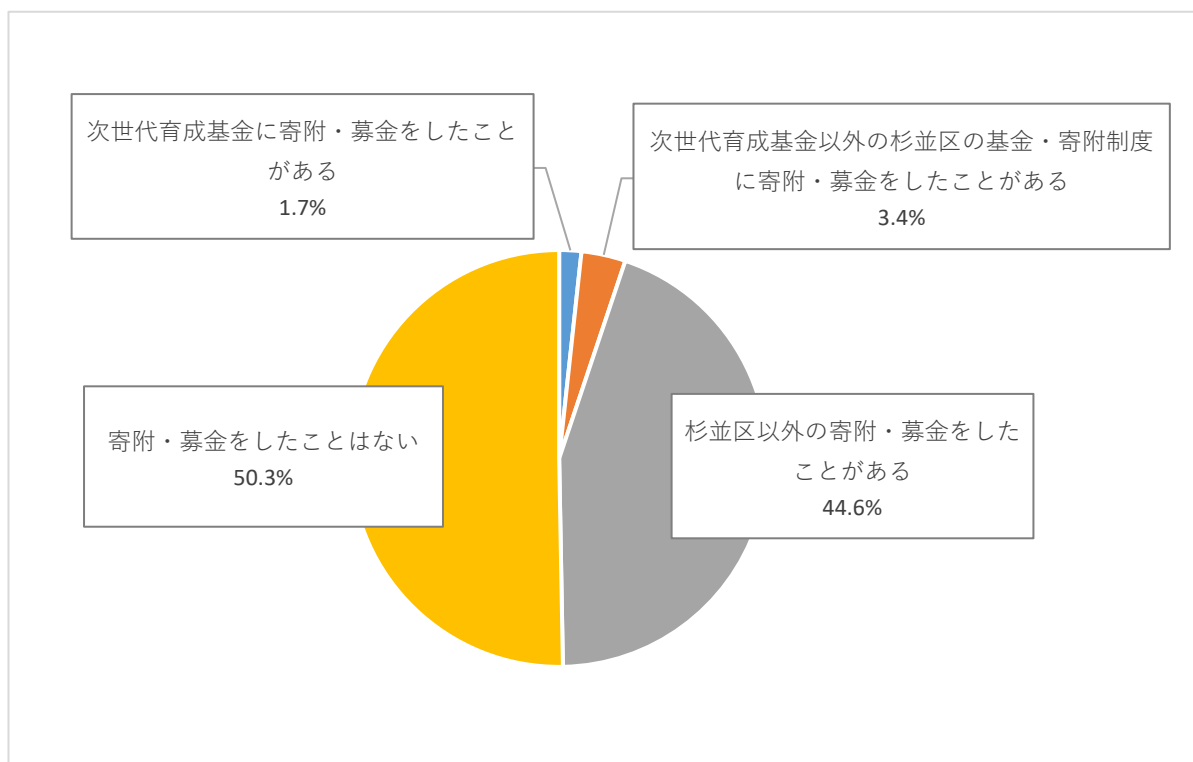


◆ 寄附・募金について

問11 寄附・募金の経験について、当てはまるものを教えてください。(回答は1つ) 必須

n= 175

	全体		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
次世代育成基金に寄附・募金をしたことがある	3	1.7%	0	3	0	0
次世代育成基金以外の杉並区の基金・寄附制度に寄附・募金をしたことがある	6	3.4%	0	0	4	2
杉並区以外の寄附・募金をしたことがある	78	44.6%	7	32	36	3
寄附・募金をしたことはない	88	50.3%	11	40	30	7
合 計	175	100%	18	75	70	12

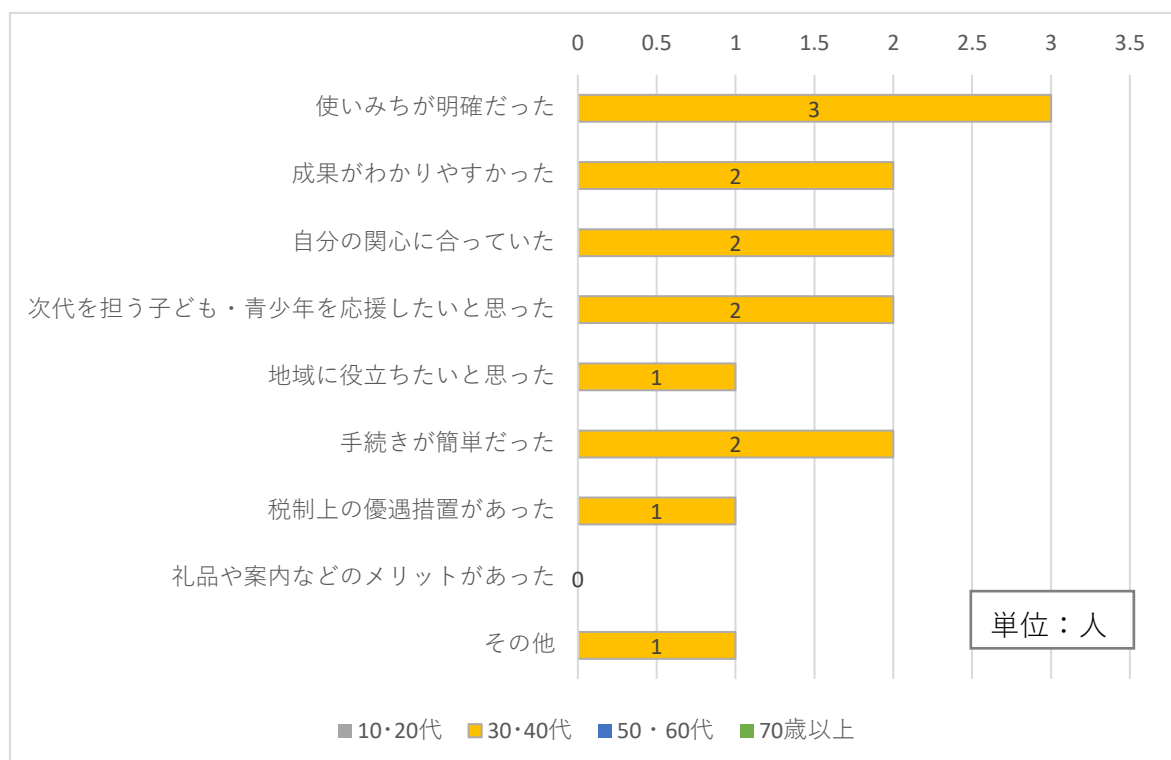


問12 問11で「次世代育成基金に寄附・募金をしたことがある」を選んだ方に伺います。次世代育成基金に寄附・募金をした理由を教えてください。（回答はいくつでも） 必須

n= 3

	全体		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
使いみちが明確だった	3	100.0%	0	3	0	0
成果がわかりやすかった	2	66.7%	0	2	0	0
自分の関心に合っていた	2	66.7%	0	2	0	0
次代を担う子ども・青少年を応援したいと思った	2	66.7%	0	2	0	0
地域に役立ちたいと思った	1	33.3%	0	1	0	0
手続きが簡単だった	2	66.7%	0	2	0	0
税制上の優遇措置があった	1	33.3%	0	1	0	0
礼品や案内などのメリットがあった	0	0.0%	0	0	0	0
その他	1	33.3%	0	1	0	0

その他・・・
・我が子が参加させていただきお世話になったため



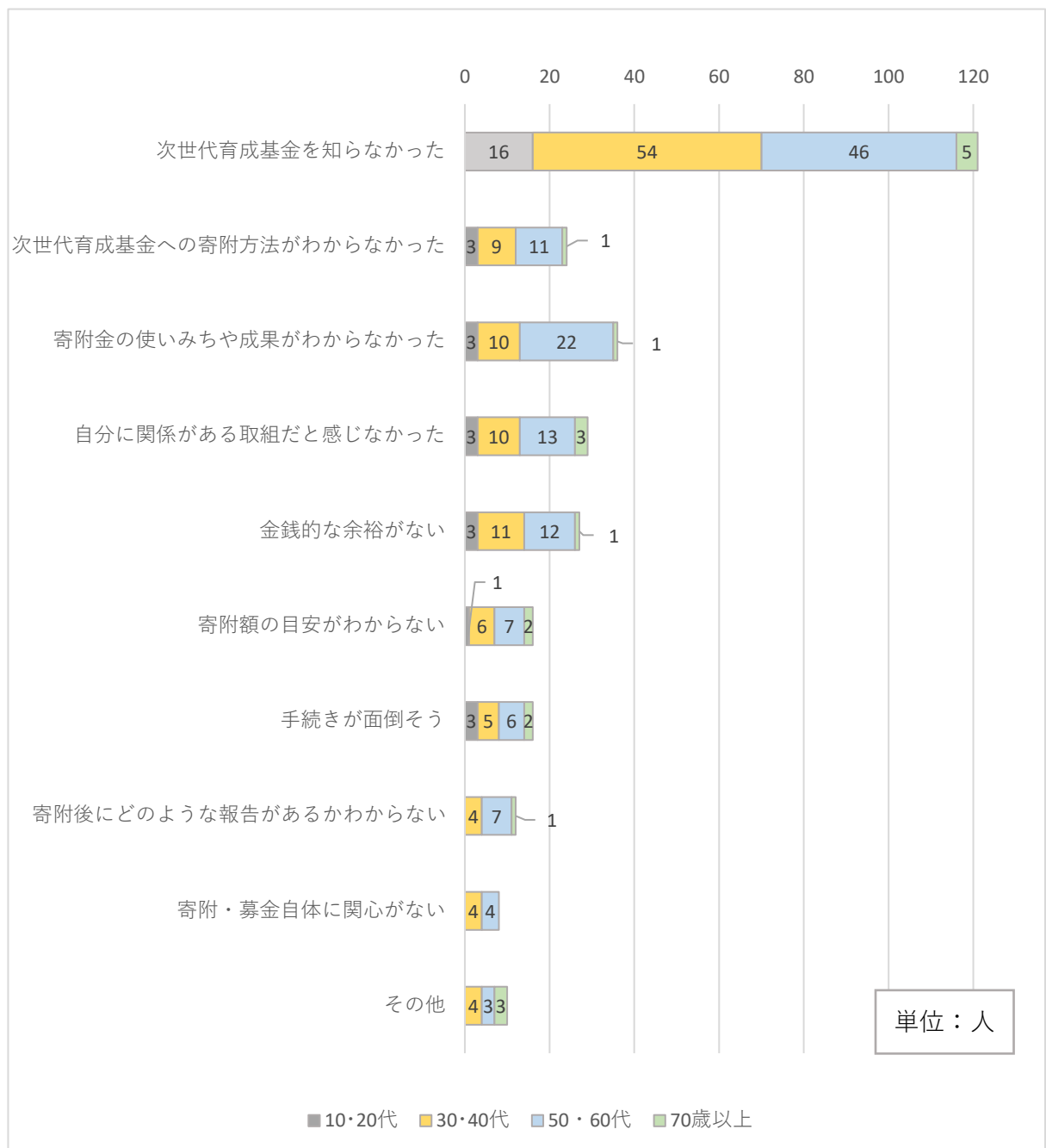
問13 問11で「次世代育成基金に寄附・募金をしたことがある」以外を選んだ方に伺います。次世代育成基金に寄附・募金をしていない理由に近いものを教えてください。(回答はいくつでも) **必須**

n= 172

	全体		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
次世代育成基金を知らなかった	121	70.3%	16	54	46	5
次世代育成基金への寄附方法がわからなかった	24	14.0%	3	9	11	1
寄附金の使いみちや成果がわからなかった	36	20.9%	3	10	22	1
自分に関係がある取組だと感じなかった	29	16.9%	3	10	13	3
金銭的な余裕がない	27	15.7%	3	11	12	1
寄附額の目安がわからない	16	9.3%	1	6	7	2
手続きが面倒そう	16	9.3%	3	5	6	2
寄附後にどのような報告があるかわからない	12	7.0%	0	4	7	1
寄附・募金自体に関心がない	8	4.7%	0	4	4	0
その他	10	5.8%	0	4	3	3

その他・・・

- ・体験、交流事業に寄付する必然性が薄いと感じたから、寄付するのをやめ、杉並区社会福祉協議会を通じて、こども食堂に寄付した。
- ・寄附・基金という用語自体がどこまで含むのかの理解が追いついていない。例えばふるさと納税をしたことがあれば寄附・募金したことになるのか？とか。
- ・すでに多額の住民税を払っている。杉並区は、予算の無駄を排除し、必要な資金は税收から出すべきである。
- ・別の用途に寄付したいため。
- ・寄付だけで成り立っている基金であることを知らなかった。
- ・具体的な交流内容がわからない。
- ・「次世代育成基金」は杉並区が予算化して作った基金で、基本的に区税や国や都からの補助金で運営されているものだと思っていた。
- ・ふるさと納税枠を使った寄付しかない、ふるさと納税枠はやはり返礼品がもらえるものがよいと感じてしまう人が少なからずいると思われる。そのため、ふるさと納税以外の通常の寄付金控除となるような方法もあるとよい。
- ・区内より広い範囲であまねく平等・公正に活用される制度に関心を寄せて寄付をしてきたため。



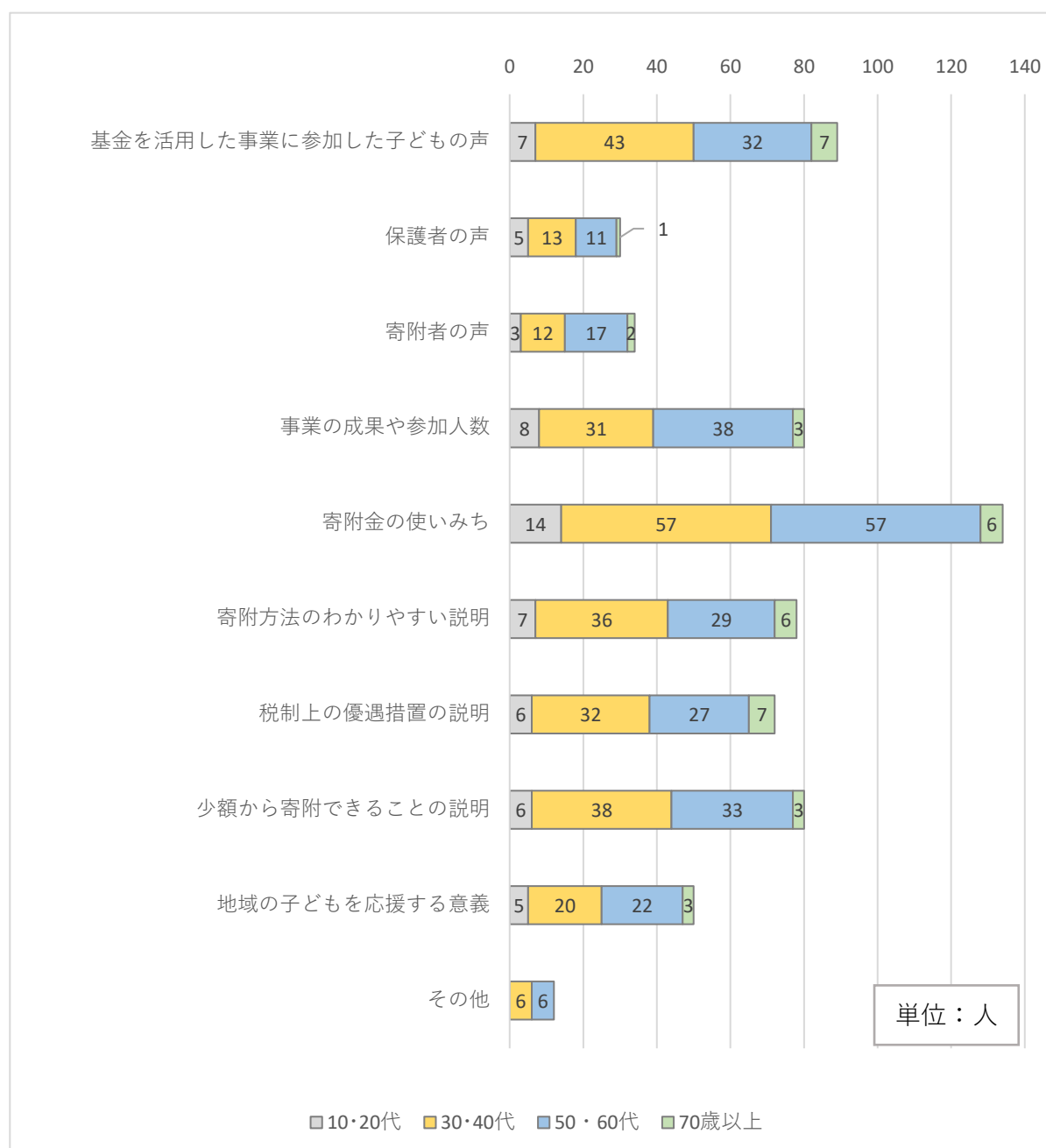
問14 次世代育成基金への寄附・募金を考えるきっかけとして、効果的だと思う情報はどれですか。(回答はいくつでも) 必須

n= 175

	全体		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
基金を活用した事業に参加した子どもの声	89	50.9%	7	43	32	7
保護者の声	30	17.1%	5	13	11	1
寄附者の声	34	19.4%	3	12	17	2
事業の成果や参加人数	80	45.7%	8	31	38	3
寄附金の使いみち	134	76.6%	14	57	57	6
寄附方法のわかりやすい説明	78	44.6%	7	36	29	6
税制上の優遇措置の説明	72	41.1%	6	32	27	7
少額から寄附できることの説明	80	45.7%	6	38	33	3
地域の子どもを応援する意義	50	28.6%	5	20	22	3
その他	12	6.9%	0	6	6	0

その他・・・

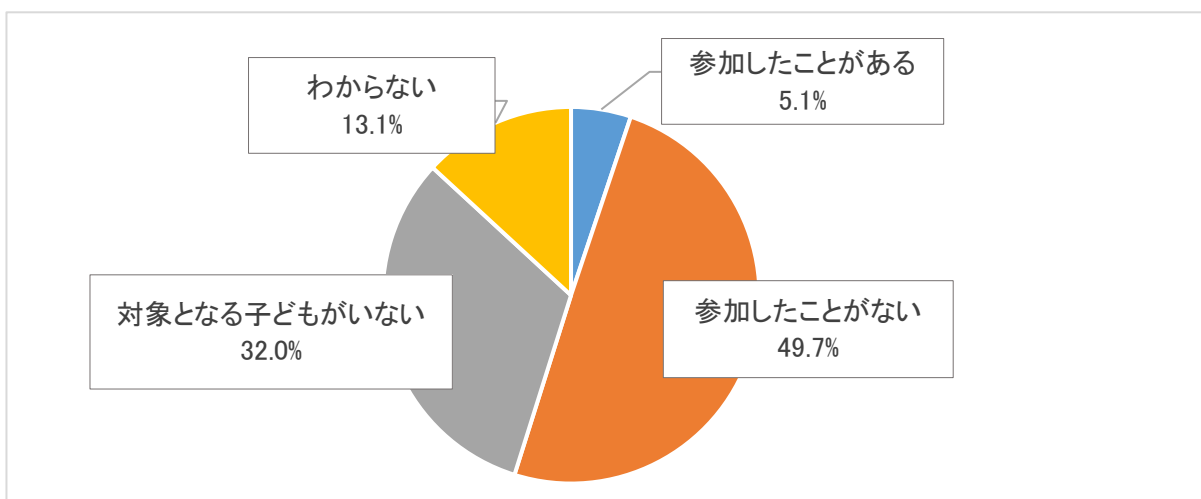
- ・制度や趣旨の説明だけでなく、寄附によって誰のどのような課題が解決され、どのような将来につながるのかが具体的に伝わる情報。
- ・日本に「寄付」という文化が薄いので、意義をしっかりと理解してもらうための方法やロードマップを論議する必要があると思う。個人的によくわからないのは、これだけNPO等の「補助金」ビジネスがあり、様々な名目で税金が徴収されているにもかかわらず、なぜ、収税する主体が「寄付を募るのか」、単に予算繰りに問題があるだけなのでは？という気持ちになる。
- ・基金に共感してもらうのであれば使い道や子供たちの声。募金してもらいたいのであれば優遇措置など募金者へのメリット。というようにこちらも質問をもう1段階深掘りしていただけますと。
- ・次世代育成基金が行っている具体的な内容や対象者がわかれば、寄付を考えます。
- ・使い先と、詳細な金額の公表。
- ・参加しなかった子どもの意見 何故参加しなかったか
- ・実際、制度のあり方やお金の使い道、寄附を募って子ども達に有効的に働きかける事業であるのかみえて来ない感じがします。
- ・既にやっているかもしれないが、子供の声とともに寄付した事業者と寄付額を区報など目に留まりやすい媒体で公表する。
- ・広報すぎなみやLINEなどでの広報媒体を使って、上記のきっかけをご提供下されると幸いです。
- ・次世代育成基金自体の理解促進
- ・寄付者氏名の目につきやすい公表。少しの返礼品(杉並区を宣伝する効果もあるような品物。公式キャラクターがはいったエコバックや、ボールペンなど)
- ・子どもの多様な体験機会への参加や充実が、実際に先々どれほどの個人や社会の幸福につながっていくか、つながっているかということの研究者・専門家・実践家などによる科学的(根拠の)説明。



問15 あなたやご家族は、次世代育成基金を活用した事業に参加したことがありますか。
(回答は1つ) 必須

n= 175

	全体		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
参加したことがある	9	5.1%	0	7	2	0
参加したことがない	87	49.7%	7	31	42	7
対象となる子どもがいない	56	32.0%	6	24	22	4
わからない	23	13.1%	5	13	4	1
合 計	175	100%	18	75	70	12

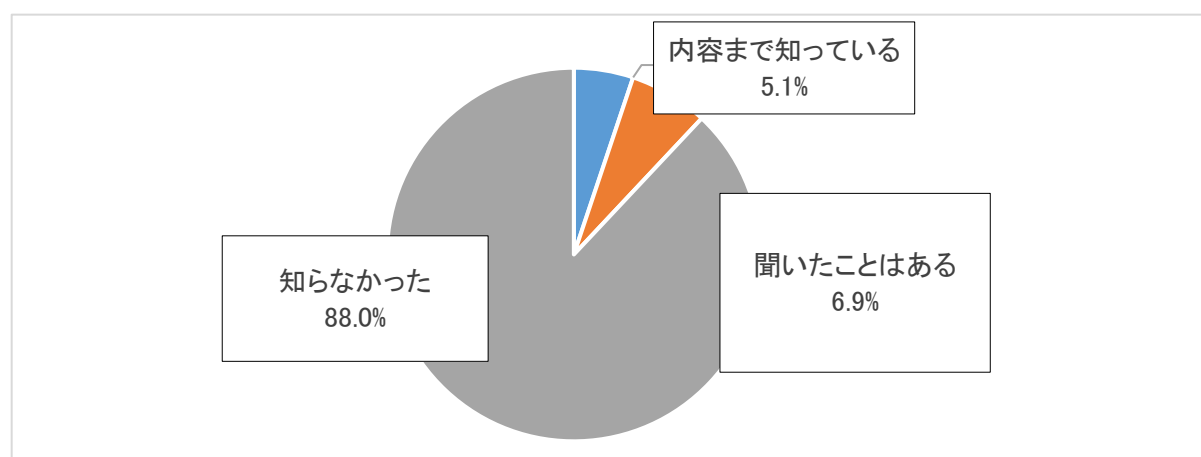


◆ 次世代育成基金を活用する民間団体について

問16 次世代育成基金を活用して、民間団体等が行う基金の目的に合致した体験・交流事業に助成していることを知っていますか。(回答は1つ) 必須

n= 175

	全体		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
内容まで知っている	9	5.1%	0	7	1	1
聞いたことはある	12	6.9%	1	5	5	1
知らなかった	154	88.0%	17	63	64	10
合 計	175	100%	18	75	70	12



問17 民間団体等からの申請を増やすためには、どのような相手に周知するとよいと思いますか。(回答はいくつでも) 必須

n= 175

	全体		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
区内のNPO・地域活動団体	83	47.4%	11	34	32	6
子ども・若者支援団体	90	51.4%	10	37	39	4
スポーツ団体	71	40.6%	6	36	27	2
文化・芸術団体	72	41.1%	6	36	27	3
大学・専門学校	66	37.7%	8	29	27	2
企業・商店会	81	46.3%	9	32	37	3
町会・自治会	49	28.0%	7	19	19	4
その他	15	8.6%	0	6	7	2

その他・・・

・制度を広く告知するだけでなく、子ども・若者支援の現場に近いNPO、子ども食堂、学習支援団体、児童館、学校・PTA、社会福祉協議会、自治体窓口などに対して、具体的な活用事例と申請方法をセットで周知すると申請につながりやすいと思います。

・杉並区としてアピールしたい事業の各種団体

・商工会

・区内の小・中・高校・使い道が不透明になるので、民間団体の申請は反対です。

・一部の人しか参加していない団体に声をかけても広がりがない。

・5大学・専門学校とありますが 支援対象年齢が高年齢なのではないでしょうか？だとしたら私の認識不足でした。もっと小さな子どもが対象かと思っていました。だとしても高校・中学校・小学校をプラスして下さい。

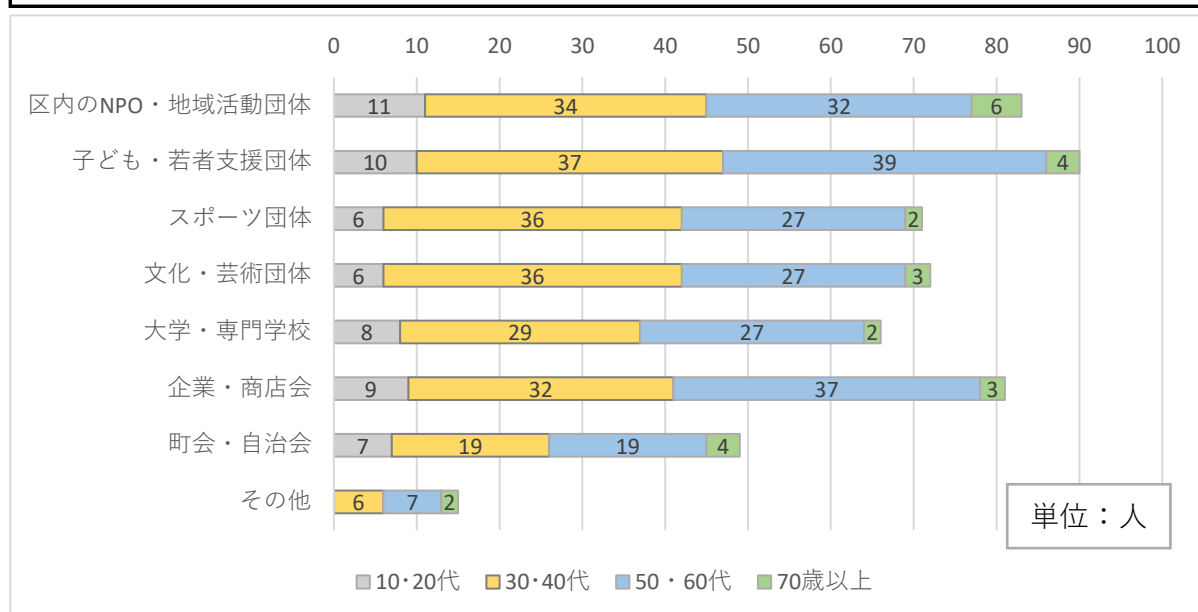
・もう一度原点に立ち返って制度や寄附、使い道等区民の意見を聴いてどのように有効的に寄附金を使うのが適切であるのか時期的に問い直した方が良いと思います。

・生活衛生同業組合を通じた人々への周知

・町内会の個人店などよりも、寄付したことが宣伝効果となるような企業イメージが大事な大企業や、医療機関などを相手にするのがよいと考える。その代わり、寄付をしてもらった場合にはそれを区としても大きく取り上げるべきである。

・広く寄付を募れるようにクラウドファンディングの特設サイトなど設置

・労働者・事業者・その他一般の方々に広く大きく重要性を周知する。



問18 民間団体等が次世代育成基金活用事業助成制度を知り、申請を検討しやすくするために、今後さらに分かりやすく、届きやすくするとよいと思うものはどれですか。
(回答はいくつでも) 必須

n= 175

	全体		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
区公式ホームページでの募集案内	111	63.4%	12	48	44	7
募集説明会の案内や参加しやすさ	93	53.1%	10	32	43	8
申請書類・記入例の分かりやすさ	70	40.0%	9	33	24	4
助成対象となる事業や経費の分かりやすさ	115	65.7%	14	52	42	7
過去の採択事例や実施事業の紹介	86	49.1%	7	37	35	7
NPO・地域活動支援組織等を通じた周知	41	23.4%	4	18	18	1
その他	14	8.0%	1	8	5	0

その他・・・

・実際に採択された事業の具体例、申請書の記入例、助成対象となる経費の具体例、申請から採択までの流れを、1枚で分かる資料や短い説明動画としてまとめるとよいと思います。また、子ども・若者支援に関わるNPO、学校、PTA、社会福祉協議会、子ども食堂、学習支援団体等に対して、具体的な活用事例と申請方法をセットで直接周知すると、申請を検討しやすくなると思います。

・NPOの淘汰、絞り込みを行い、1団体の規模・人口当たりの団体数などを適正化してサポートできる範囲を適正設計する。

・ターゲットを絞ったインタビュー⇒例えば民間団体向けの施策と募金者向けの施策は全く異なるものだと考えます。

・積極的な営業活動

・使い道の詳細な金額公表。

・使い道が不透明になるので、民間団体の申請は反対です。

・申請方法の手軽さ。QRコードで申し込みOKなど

・区の公式LINE

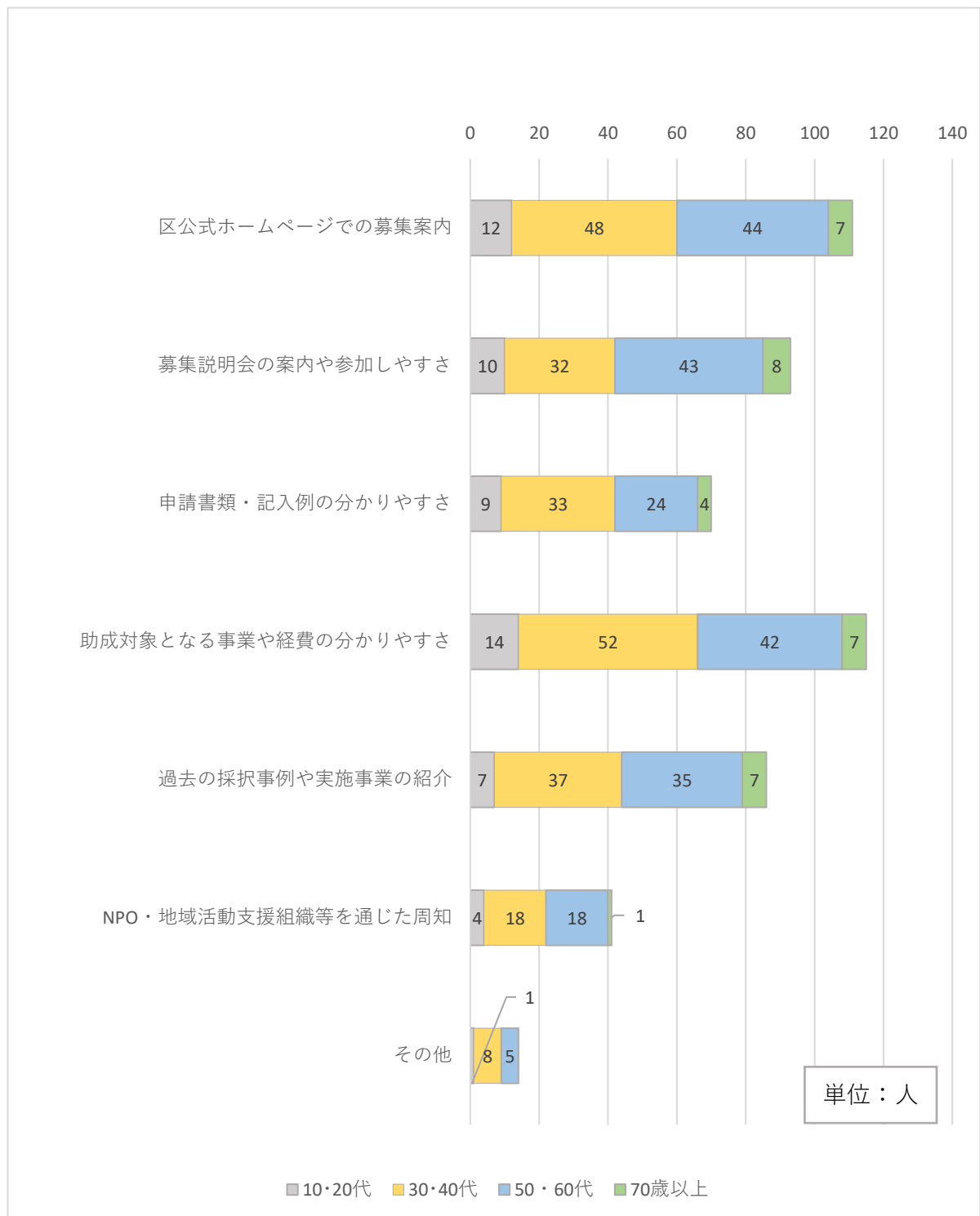
・SNSやYouTube動画などへの情報発信

・助成金を必要とする団体が、何らかの形で助成制度全体を調べた時に、目につくようにする。

・オンラインで、しかもある程度決まったフォーマットに簡単に入力することができるようにする。申請段階では多少計画が固まっていなくても、区が相談に乗ってあげるようなシステムがあるとよい。

・電話予約と窓口持参が前提の申請方法が最大の障壁です。フォーム等による電子申請を導入し、募集時期を前年などに事前公表してください。あわせて採択事業の実例紹介を充実させ、区のHPのみならずSNS等で広範囲へ直接届く周知をお願いします。なみすけを活かしたSNSの浸透度合いはそれなりに高い実績を有していると認識しております。

・公共施設の(利用登録などを含む)登録団体・個人への周知。



◆ 次世代育成基金への関心・意向について

問19 次世代育成基金について、今後のあなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。
(回答は1つ) 必須

n= 175

	全体		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
基金について、さらに詳しく知りたい	64	36.6%	12	27	20	5
寄附・募金をすることを検討したい	9	5.1%	0	3	6	0
基金を活用した事業に、子どもや家族を参加させたい	25	14.3%	1	21	3	0
関係する団体等があれば、助成制度を知りたい	6	3.4%	0	1	5	0
制度の意義は理解できるが、今のところ具体的に関わる予定はない	44	25.1%	4	11	25	4
今のところ関心はない	15	8.6%	1	7	5	2
わからない	6	3.4%	0	2	4	0
その他	6	3.4%	0	3	2	1
合 計	175	100%	18	75	70	12

その他・・・

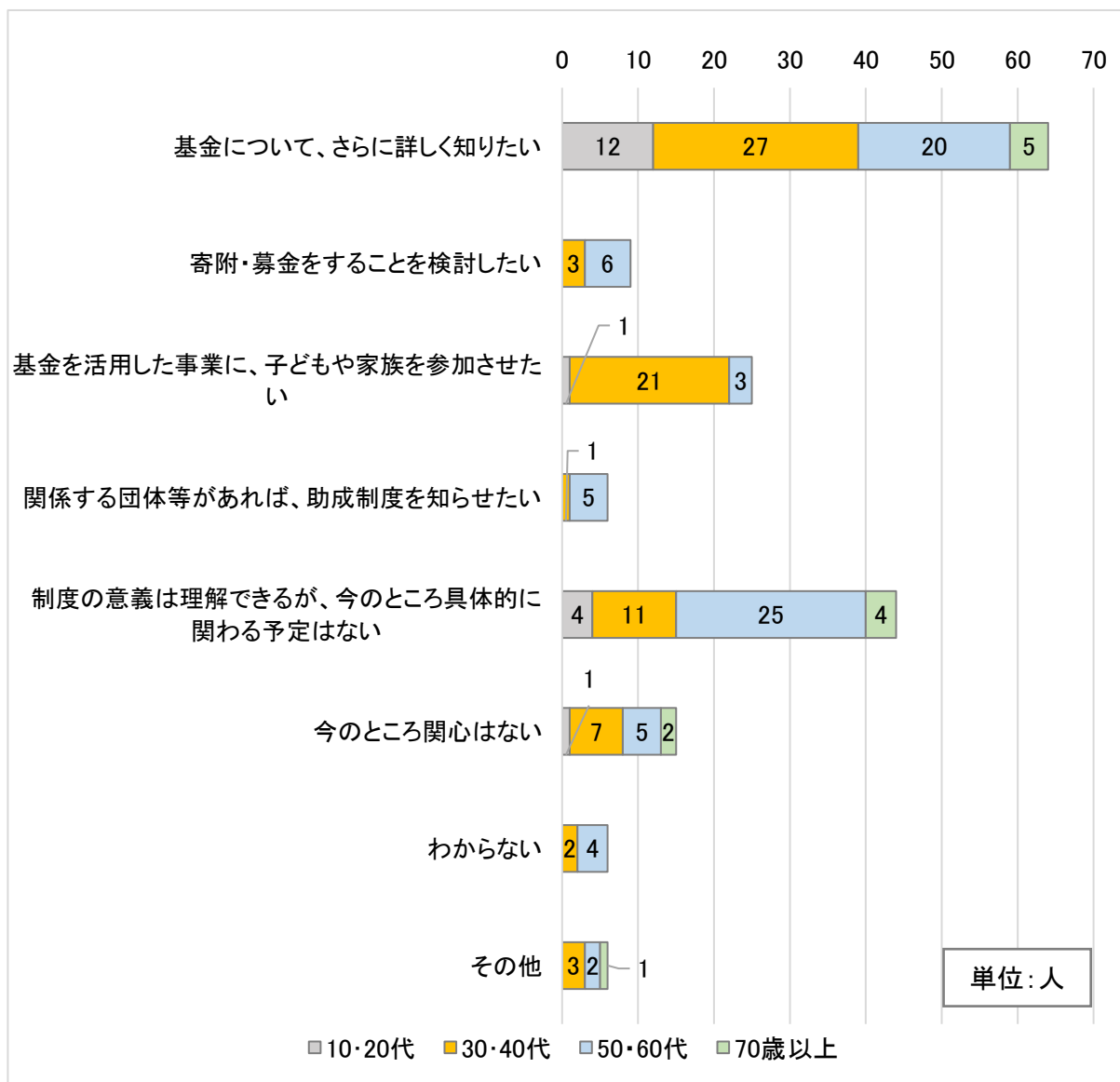
・まずアンケートそのものの設計ですが、的確に回答するための情報提供をしてください。せめて区HPに内容を掲示しているのなら、リンクくらい載せるべきだと思う。内容を見ましたが、林間学校や留学など、大半が本来親が子供に提供してやるべきもので、なぜ人からの寄付を募り、区がかかわってまでやる事業なのかわからないものが多い。次世代育成って今年の夏休みにどこへ行く、とかそういう話ではないですよね？子供が対象なら、もっと長い目で見てその子の人材育成に資する活動があるはずで、長期的視点で見ないと効果測定できないものをむしろ取り入れるべきではないかと思います。また参加人員も十数人規模だったり、これだと情報を知っている人がたまたま参加できた風な印象を受ける。セレクションを更に公平にする必要はないと思いますが、情報へのアクセスはもっと公平性を考慮すべきではないかと思います。

・基金の詳細な内訳

・参加した団体と区政との関わりをオープンにして欲しい。

・事業運営には興味がありますが、子ども子育て拠出金などの支払いで既に資金面の支援は行っており、これ以上の支援は厳しいです。

・上記の選択肢1～4すべてと、寄付の意義などについて広く理解を深められる・深めてもらえるような日常的取り組みをしていきたいと考えます。



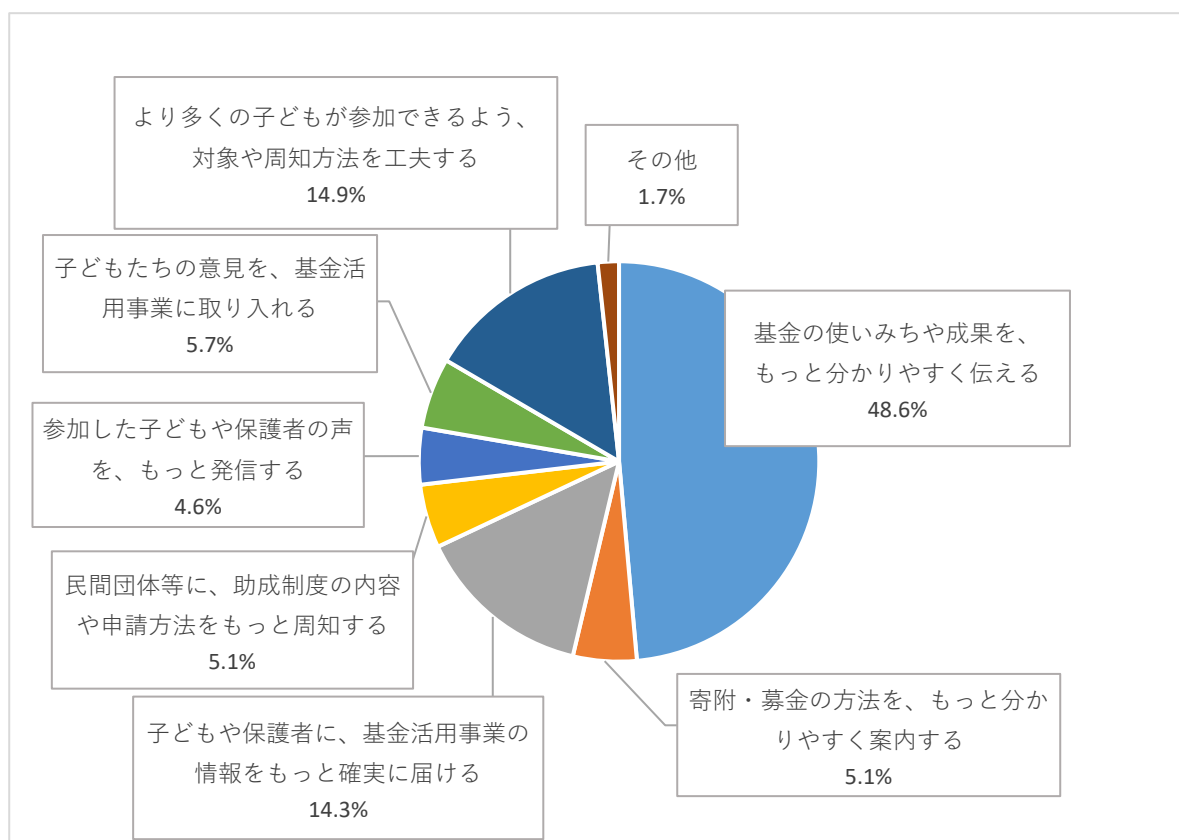
問20 今後、次世代育成基金の取組をより良くするため、区が最も優先して取り組むべきだと思うものを1つ選んでください。(回答は1つ) **必須**

n= 175

	全体		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
基金の使いみちや成果を、もっと分かりやすく伝える	85	48.6%	8	27	44	6
寄附・募金の方法を、もっと分かりやすく案内する	9	5.1%	1	4	2	2
子どもや保護者に、基金活用事業の情報をもっと確実に届ける	25	14.3%	2	19	3	1
民間団体等に、助成制度の内容や申請方法をもっと周知する	9	5.1%	2	4	3	0
参加した子どもや保護者の声を、もっと発信する	8	4.6%	1	2	4	1
子どもたちの意見を、基金活用事業に取り入れる	10	5.7%	2	6	1	1
より多くの子どもが参加できるよう、対象や周知方法を工夫する	26	14.9%	2	11	12	1
その他	3	1.7%	0	2	1	0
合 計	175	100%	18	75	70	12

その他・・・

- ・次世代育成基金そのものをもっと周知する。
- ・区民が自分ごと化できるような情報提供や周知方法を検討してほしい。
- ・基金の使いみちや成果の情報発信を増やす(量・頻度・媒体)



問21 問20で選択した番号(1～7またはその他)を記入のうえ、選んだ理由や具体的な提案があれば記入してください。(自由記述)

1 基金の使いみちや成果を、もっと分かりやすく伝える

・子どもが中学くらいまでは、関連することをもっと知っていたが、情報源がなくなり、知る機会が減ってしまった。自分から情報を見つけるところまではなかなかできないが、今回このアンケートに参加したことで、もっと知りたくなった。やはり、基金を知る入り口にいかに関導できるかが、重要だと思った。

・子供たちの健全な育成に役立つ活動の公的支援は大変重要な課題と思います。まずは現在の基金の実情を広く区民に知ってもらうとともに、現状の問題、課題にあった活用方法、運営方法などを広く議論して制度のよりよい活用を目指してほしいと考えます。

・使いみちと成果の公開は、PDFの個別掲載ではなくダッシュボード化と二次利用可能なデータ提供で行うべきです。年度別の寄附額・基金残高・取崩額の推移、助成先ごとの参加人数と経費、「寄附1万円が何人分の体験になったか」といった換算指標を、すぎなみデータラウンジ上でCSV出力可能な形で公開してください。SNSで成果をPRし、まずはこの基金が魅力的であることを広く知らせることが重要です。寄付という「行動」の前段階にある「認知」が全くできていないのではと思います。そして、成果が検証可能になることで、寄附の呼びかけや制度の周知が効果を増し、説得力を持ちます。

・①助成先の明確な選定理由。細かな資金の用途の開示。②現在はそれぞれの助成先で30名前後の少数に大きく助成していることが多いが、それだと区民として恩恵を受けている感じが乏しい。区のスポーツ施設の子供利用料を大きく下げたり、商店街のお祭りへの助成や町内会のラジオ体操での配るお菓子というようなみんなが恩恵を感じるようなものの方が寄附の動機としては良いとおもわれる。③寄附してくれた方にはその名前をわかりやすく公表・周知することなどが、「近くの人でも寄附しているなら自分もすこしやってみよう」というような相乗効果にもつながると思われる。また、寄附者の公表についてはかならずしも本名じゃなくてもニックネームでもよいようにするのも良いかもしれない。寄附総額が一定を越えた方は区施設に銘板などもありだと思う。④寄附後の確定申告での記載欄・方法などをしっかり記入例もふくめて周知することは大事だと思う。

・赤い羽根募金で不正があったりなど、本当に募金したお金が正しく使われるのかに不安がある。透明性を高めるための説明が重要と感じる。

・私は学校の配布物で知りました。それに誰かがInstagramであげていました。SNSで周知がやはり効果的だと思います。

・オープンで、わかりやすい説明は大事ですね。

・こどもの感想はおとなの顔色を伺いがちになりやすいので不要と思う。成果もすぐ現れるものではない。小中学生が、大学進学を考えるあたりで、今の環境では触れることのなかった分野に目を向けるきっかけになるなどだろう。ニューヨークの美術館が毎月、引率付きの小中学生の見学優先日があった。今の大統領なら無駄だといひそうだが、10年後のための種まきとしてそういう活動は必須だろう。

・このような基金については、具体的に何に使われているのか分からず、また実際に使われている用途や正しく使われているのかを確認することができないためしっかりと内容が分かるように、どのように使われて、どのような活動のためになっているのかを分かるようにしてほしい。

・使い道を適切、適正かつ公平に、有効に使っていることを周知すれば、皆が参加したくなると思います。

・子どもがいなく、仕事も子どもに関わるものでないため、正直関心が薄い分野でした。高円寺地域自体が単身者や若年層の住民が多いイメージなので、私と同じような認識の方も多そうです。なのでまずこのような制度があることを広く認識させることから始め、その寄付や基金がどのような成果に結び付いているかをしっかり伝えることが大切だと思います。制度は良いものだと思うのですが、子どももないから関係ないのかなと思ってしまい、それ以上は考えないで終わってしまう方も多いのではないのでしょうか。的確な名前かとは思いますが、次世代育成という制度名が興味を引く層を狭めているような気がします。

・子供がいる世帯ですが、そもそもその取り組みを全く知りませんでした、今でもわかっていないので、どういうものなのか、用途や過去の事例での成果はどうか、対象はどうかなどを知らせたほうが良いと感じます。

・この取り組みを知っている人、団体だけがメリットを享受している状態だと思うのももっと幅広く周知徹底が出来ると良いから。

・図書館などでパンフレットを見たことがあるが、正直、あまり、大したことをやっていないという印象しかない。（勘違いしていたら、すみません。）なんとなく次世代育成基金は夢があった方がいいと思う。検討外れかもしれないが、海外の奨学金のような留学制度とか。家庭の事情に関わらず、頑張っている子の夢のある応援になるように。

・基金について知らない区民が多く居ると思うので、内容や意義、成果等を周知する事が重要だと思います。区のHPを読みたくなるようなものにして、区内の駅や人が集まる施設でビラを配ってHPに誘導する、等

・子供が区立学校に通っていたので学校を通じて基金の存在は知っていたが、それ以外のルートで情報を知ることはなく、寄付を募っていることも知らなかった。寄付を求めるターゲットをどこに設定するかにもよるが、もし一般的な区民を対象としているのであれば、周知方法に工夫の余地があるのではないか。また、区民はすでに住民税を納めているのだから、それ以外に寄付を求める理由は十分に説明が必要と思う。

・今回、次世代育成基金を知る機会をいただきありがとうございました。自身に子供がいなくてもあり、基金の存在も具体的な活用方法も知りませんでした。ふるさと納税による杉並区の税収減の深刻な状況を鑑みると、直接的に税収増加とは関係ないとしても、基金に参加するメリットも広報することで、杉並区の行政、取組について区民の関心を高めることができるのではないかと考えます。

・私自身がこの制度について無知であり、その意義を十分に理解してこなかったのも、まずは広く周知することが大切であると考えたから。問20の選択肢はどれも大事なものであるが、とにかくみんなに知ってもらうことが必要で、そうすれば寄付・募金をする者も申請をする者も増えるのではないだろうか。

・基金そのものを知らなかったのも、そもそも行政のやっている事を知る機会が普通の区民より多いはずなので、それでも聞いたこともなかったという事実があり、基金の成果がもっと知れるような方法を作らないと効果が薄いと思いました。新聞はとってないので広報すぎなみは全世帯配布の時しか見る機会があまり無いし、区のHPも用事が無いと見ませんし。私は町内会に入っていますが最近と同じ班の世帯は半分しか入っておらず、回覧板だけで周知するのは難しいと思います。ですが、私は親の代から理容店を営んでいるので、理容の生活衛生同業組合にも入っているので、私たち理容生活衛生同業組合員に情報が届いて、かつお客様に届けたい情報だなと思えばある種のインフルエンサー的な手法でお客様やご近所さまに良い意味で言いふらすので、そういった所を利用するのも良いのではないかと思います。

・寄付する側としては、こういったものに使われて、どういう成果？結果？が出たのかがわかることが大事だと思う。昨今、テレビのチャリティ番組などの募金を利用した横領問題などが話題になっているため、信頼感を与えるためにも有用だと思う。

・寄付金などを集める場合に重要なのは「志」です。何を解決しようとしていて、そのためにお金が必要な理由を募金者に納得させる必要があります。何故、基金を立ち上げようと思ったのか、どうして他の手段よりも基金を要する選択をしたのか。それらを地域の方々に伝える事ができれば、募金しようと思う人は増えます。

・どうしても我が子対象年齢ではないと興味が湧きません。我が子を育てるのに精一杯。寄付するくらいなら我が子に使いたい！そう思う家庭が多いのではないのでしょうか？次世代育成基金を利用された方の進路や成果をしっかりと伝えて、有意義な取り組みであることを広く周知するべきだと思います。

・基金の使いみちや成果が分かれば、寄附した先に何が起きるかがわかり、それに賛同できる場合、基金に協力したいと考える人が増えると考えたから。

・今後も社会（杉並区を含む）を維持・発展・推進していくために次世代を担う子供達を育てていくことは重要な取り組みだと思う。しかし、そういった制度が有り、また運営されていることが区民（全員は無理だと思う）に良く知られていない様に感じる。自分も過去に数回杉並区への寄付をしたが、福祉関係（子供の施設）であった。次世代育成基金のことを認識していれば、対応は異なったかもしれない。

・全く知らなかったが、自分の家庭に関わることはなさそうなので、この先もあまり関心はわかないと思う。

・「1」を選択しましたが、「2」と合わせて告知を強化するのが効果的だと思います。区の広報誌およびホームページにて特集を組み、区の公式SNSでも告知すると幅広く伝えることができるように思います。

・そもそも、次世代育成基金が何なのか？一般の人は基金って何？くらいの認識しかされてなく全く認知されてないです。積極的に制度を活用してもらい活性化しようという気持ちは理解できますが、区側が思っている以上に認知されてないと考えて、今後の施策を検討されると良いかと思います。

・今までも広報活動はあったのだらうと思いますが、子供が成人して他の市町村に居住していることもあり、関心が低めでした。具体的に実現したものなどが発信されたら見させていたきたいと思います。

・効果を区民が実感できたら、自分たちも対応することを考える可能性があると思うから。

・基金を使って何をしたのかを知りたい。どのような成果があったのかも知りたい。

・参加している民間団体と区政との関係性が分からず不安を感じるので、公的資金を投入するのであればその流れを区民が把握できるよう明らかにして欲しい。

・この基金の成果がわからないと動きようがなく。ぜひ教えてほしいと思います。

・この基金が「どのように次世代の育成に役立つか」を詳しく、積極的にPRすることで、賛同者が増えてくることを期待します。

・育成基金も結構ですが、それ以前に子供食堂があるように、まず命の保証が最優先課題ではないでしょうか？

・区民の関心を生むとよい。

・次世代育成基金について全く知りませんでした。今は子供は成人しており対象ではありません。純粋に寄付金だけで運用され、税金は投入されていないという事業なののでしょうか。こういった背景、理由で行っているのかわかりませんが、区単位で行うべき事業なのかについて、事業内容や使い道に照らし合わせて考えるべきではないかと思います。

・私自身が上記の基金についての認識がありませんでした。例えば主要駅、主要イベント、各団体等の集まる場所・時間にこの基金のアナウンス（使い道、成果、寄付募金方法等）を積極的に行う。

・成果が分らないと、なかなか参加しようと思えないため。有意義だと感じるものが、大切だと思います。

・成果が民間団体等による申請のインセンティブになる。

・寄附するならば、その使途先を明瞭に知りたいと思う。赤い羽根募金のようなニュースを聞くと不信感があり、きちんときたところに寄附したいと思うからです。

・お金の使い道は、明確にすべき。

・成果がない事業をやっても参加するも何もないので他の事業を推進した方が良いため、まずは成果をまとめることが大切。成果が出ているものなら寄附金もっと集めることができ、さらなる発展も見込めると思う。

・基金の使い道や対象者がどのように選定されるのか、評価基準と選択プロセスを公表する。

・成果を年次報告書や動画にまとめて公表し、報告会や展示会で発表する。

- ・何に使われてるかが最も重要な意思決定要素だと思うため。
- ・次世代育成基金のわかりやすい説明を自治体、地域などの説明会や経験者のインタビューなど実際に利用した方の意見や感想が良いのでは。
- ・次世代育成基金について存じ上げなかったため、こどものためのものであることはわかるのですが、名称からだけでは具体的な基金の使い道が想像できませんでした。昨今の不安定な経済情勢を考えると、児童養護施設や保護シェルター、子ども食堂など、こどもたちの命と安全を守る活動に優先的にお金が回ってほしいなと思ってしまいます。文化芸術に触れる機会をつくってあげることももちろん大切です。それはそれ、これはこれとするならば、この基金に(も)寄附をしたいと思える活動を提示していくことが必要だと思いました。
- ・国や都道府県でなく、市区町村での次世代育成基金の意義を分かりやすく伝えるべき。区という小さな単位でどのようなことができるのかのイメージがわきにくいので。
- ・内容を詳しく知ることが理解につながると思います
- ・広報すぎなみなど、割と目を通してはいるつもりでいたのですが次世代育成資金のことは認識しておりませんでした。
- ・次世代のためといえば何でも通る風潮があるように感じるが、現在のプログラムは短期的で、どんな次世代を育成したいのか戦略が見えない。現行のプログラムであれば、本当に親が頑張っって自分の子供に何が必要なのか、真剣に考えれば提供してやれるものが大半だと思う。自治体の良さは長期視点にたてる所。本当にその子が大人になった時の成長に資するプログラムを考えてほしい。文化芸術方面では日本の国全体の予算、投資はGDP比で先進国中最低という現実もあり、10年連続第3位の投資を続けた韓国とは今とても大きな差がついている。寄付・投資の文化もないので、支援も乏しく、戦略的でないということもある。杉並区は豊かな文化資産があるので、そのカルチャーを継承するためにもこの基金の存在はとても良い。あらゆる基金、寄付の責任として使い道や成果、また対象が誰にどう選ばれているか等プロセスをしっかりと報告することは一番大切だと思う。
- ・子どもがいないので、流してしまったのかもしれませんが。私のような者にも響くような伝え方をして頂けると、浸透するかもしれません。
- ・どのように活用、運営されているのか、今まで、まったく「知る手立て」がなかったと思います。
- ・基金の取組を広げるには、まず使いみちと成果を分かりやすく伝えることが重要だと思います。寄附金がどのような事業に使われ、どのような子ども・若者に届き、どんな体験や変化につながったのかが見えることで、寄附への納得感や民間団体の申請意欲が高まります。採択事例、参加者・保護者の声、写真や図解、1枚資料などで具体的に発信するとよいと思います。
- ・文化的なイベントの他子供の野球の大会等に使って頂きたい。どんな事に使われているか知りたい。ホームページはわざわざ見ないので広報すぎなみがよいです。

・基金の使い道が誰の視点からでも明白になっていれば、寄付してみようと行動する方が増えると考えたため。また、寄附であったり募金の方法をもっと分かりやすくすることでも増やすことが出来ると考えます。

・これまで知らなかった制度で、このモニターアンケートを機に杉並区のサイトを拝見して取組について学びました。自分が小学生の頃に住んでいた自治体でも同じような活動はあったように思いますが、親も自分もあまり興味を持って情報にアクセスすることはなかったように思います。私自身は現在妊娠中で、今すぐに取組に参加したり、積極的に寄附・募金活動に取り組むイメージはありませんが、これからの子どもたちの文化的な成長や多様な未来を考える上で大切な活動だと思うので、まずは活動の有用性をより広く伝えることが重要だと感じました。特に杉並区に限らず"寄附"に対するイメージが悪い層が一定数いるので、子どもたちのためになっていることを公式SNSなど日々のライトな発信で知っていけるといいと思います。

2 寄附・募金の方法を、もっと分かりやすく案内する

・団体自体の内容を知らない人も、多くいると思うので、寄附、募金の方法を多くの人に、分かりやすく知らせる。

・杉並区に住んで5年以上となりますが、基金について存じませんでした。子どもがいる家庭として、どう活用できるのか、寄付についてなどもっとよく知りたいです。普段からHPを拝見するわけではないので、広報すぎなみなどで知れると嬉しいです。

・区民全体で子供を支援すべきなので、人の目に触れ易い区内の駅やバス等にポスター広告で広報し、先ずは周知してもらおう。イベント時（祭り等）にブースを設けて広報するのも効果的かと思う。ホームページを利用出来ない層にも知って貰えば地域性からも支援したいと思う区民は多いはず。標語やイラストを募集し、より幅広く興味を持って貰う事も良いのではないかと思います。検討を期待します。

・行っているのは、大変意義のある事だと思います。後は周知だと。より多くの人に知ってもらう、マンパワーでやっていく。

・正直、このアンケート調査が来るまで「次世代育成基金」の存在を知りませんでした。寄付などによって賄われていて、子供たちに普段では体験できないことを実現できるのであれば、どんどんアピールするべき取り組みだと感じました。自分は20代で正直、金銭的余裕がある立場ではないですが、少額でも寄付できる方法などをより周知していただくなどすると、20代でもより関心は高まると思います。

・内容や方法よりも、次世代育成基金の存在自体を知らないと、協力のしようがない。特に子供も巣立って、次世代とかかわりのない人たちにも参加してくれるよう声掛けが必要だと思う。

3 子どもや保護者に、基金活用事業の情報をもっと確実に届ける

・情報を確実に届けることが重要。子供が小学生2人である私は、保育園時代は連絡帳アプリ、現在は連絡アプリにて学校や園を通して自治体からの情報をキャッチします。「広報すぎなみ」はたまに読むと大事な情報がたくさんあることを感じるが手に入る機会が少ない。杉並区HPをわざわざ見ることもほぼ無い。現代においてはアプリではないか。ニュースアプリ「スマートニュース」のような杉並区アプリがあり、タブで「子育て」や「高齢者」「スポーツ」など分かれあらかじめ登録したジャンルのニュースが更新されると通知されるようなもの。そんなものがあるとありがたい。チャレンジアスリートに長男が参加させてもらったことがあったがこれがこの基金によるものとは知らなかった。点の情報を線や面で理解できるツール、アプリにて展開出来ると、「寄附する」「事業に参加する」双方の活性化が起きるのではないかと期待します。

・イベントなど、内容はさておき、まずは見聞きする機会を増やすべきだと思います。

・利用が増えて生まれた利用者の声が寄付の意義や広がりにつながると思うため。

・ホームページだけでは伝わりづらい点を中心に、広報すぎなみなどの広い誌面を活用したり、説明会をするなどして伝えると、年齢を問わず広く伝わりやすいのではないかと思います。

・次世代育成基金、というのはやや一般名詞的で目に留まらない感じがするので、覚えやすい愛称があるといいと思います。「なみっこ基金」とか「すぎなみらい基金」とかそういう感じです。

・地域の子供たちがより専門力を養う施策が充実することを期待しています。

・このアンケートをいただき基金のことを調べて中学生海外留学のことを知りました。我が子が中学生の頃留学に大変興味がありましたが色々な理由で断念したためこの事業はとても興味深い事業だと思いました。ひとえに私の情報収集力不足なのですが、杉並区外の中学校に通っていたため学校からお知らせは届きませんでした。ホームページや広報も見逃してしまいがちですが町内の回覧板は毎回目を通していただいているのでご覧になるご家庭も多いかもしれません。ただ、ペーパーレス時代に逆行しているという懸念もあります。

・子育て世帯である自分自身が知らなかったため、広報誌やSNSでの発信、小中高でのチラシ配付が多くの人に知ってもらうのに効果的であると感じる。まずは多くの人に知ってもらい、興味を持つところからだと感じるため。

・知らない事業だったので、とにかく周知が必要だと思う。

・次世代育成基金の存在を知らなかったため、まずは情報がほしいと思います。ほかの行政の情報もそうですが自分で取りにいけないと得られないものが多いため、子どもに関するものは学校を通して資料を配布する・学校のネット配信を使うなど、親に直接情報が届く手段を使って情報発信していただけると大変ありがたく思います。

- ・小学生の子供を持つ私自身が知らなかったので、まずは伝える事なのかなと率直に思いました。
- ・子どもが区立小学校に通っており、学校支援本部や商店街が多くのイベントを企画・開催してくれます。しかしながら、イベントの資金源が何かは大きくPRされていないので、もしかすると、次世代育成基金の助成事業なのかもしれませんが、明確にわかりません。上記のような理由から、申込時や参加時に資金源が明確に参加者に伝わる工夫があれば、寄付者も貢献したことに対する満足度が上がると思いました。
- ・体験格差が指摘される中、体験交流事業が次世代育成に効果はあると思う。しかし、次世代の現在的な育成、あるいは成長の課題を捉え直し、その課題解決の方途を探ることも必要ではないか。技術革新によって次世代の成長の課題が急速に変化し、捉え難いことがあるように思われる。

4 民間団体等に、助成制度の内容や申請方法をもっと周知する

- ・私自身も次世代育成基金を初めて耳にしました。周りにいる様々な所属の人に確認しましたが、誰も認識がありませんでした。まずは認知度をあげる事、有用な制度である旨の理解促進が必要だと思います。
- ・資金力のある企業の協力は欠かせないと思います。企業側としてもPR効果などのメリットが必要だと思います。例えば、協力して下さった企業になみすけを活用した杉並区次世代育成基金サポーターのロゴを提供して、企業の名刺、WEBサイト、オンライン会議の背景などに使用できるようにする、などいかがでしょうか。
- ・会社員は、地方自治体が行う事業にアクセスする機会が少なく、たいていは、企業の福利厚生で代替できます。そうしますと、会社員に対する呼びかけを充実させないと、特定の方（地域密着な活動家や自営業の方）しか制度を知らないということになりがちです。
- ・個人からの寄附・募金を募るための広報活動も大切だと思いますが、ある程度の規模と実績を積み上げる必要性を感じます。個人に比べて裁量の大きい民間団体等と協力関係の輪を広げて、知名度を高める観点を優先することが大切と考えました。若い世代、次世代を育成するための基金であれば、発信する内容を効果的にすれば共感、賛同する個人は自ずとついてくると思います。
- ・そもそも知らない、と始まらない気がした。恐らく夫のクリケット団体が利用している気がしたが私の記憶も定かではなくマイナーな事業だと思うので。

5 参加した子どもや保護者の声を、もっと発信する

- ・広報すぎなみで助成対象となった例を是非、紹介してほしい。
- ・広報すぎなみによる継続的な発信
- ・子どもが参加して良かったと思い、その声や具体的な活動が「一般の人」に見えればいいなと思います。例えば、人の集まる場所（スーパー、病院の待合室など）での資料配布・広報です。

・「次世代育成基金」の名前は恐らく耳にしたことがあったのだと思いますが、何故かきちんと覚えていませんでした。広報などはほぼ毎回目を通してはいますが記憶に残っておらず、自分の不注意と言えばそれまでですが、たまに参加した子供や保護者の声を大きく発信していれば気付く人も増えると思います。

・そもそも存在を知らない寄付をしたいひとを増やすことからするよりも寄付をしたいと思ってるけど、行動してない人を基本的にはターゲットにするとよいということは、その人の共感を呼ぶ告知をした方がいい、となると、助けになる対象が1番共感を呼びやすいから。

6 子どもたちの意見を、基金活用事業に取り入れる

・子どもたちのためにするのだから大人よりも子ども自身の声、意見、要望を聞くのが一番だと考えるから。中2で杉並の子はスキーを体験できたと聞く。今はスキーをやったことがない子が増えている。

・イマジナスは複数回利用しましたが、無料または安価で体験できるものが増えると、利用しやすいと感じます。幼児期から低学年の子供が自分で実験をするなら、どのようなものがやりやすいか、子どもの意見も組み入れるとどのような内容になるか見てみたいです。イマジナスでなくてもよいのですが、杉並区は自然も豊かなので、あさがおやオシロイバナを使った色水実験など自然の素材を使ったものもできる場所があるとうれしいです。国内交流や自然体験などについては、家庭の事情や発達特性、病気などの事情により、体験する機会が得にくい子供達にそうした機会が生まれるとよいなと感じました。内容自体に参加しやすいような配慮があったり、手続きの容易さ、手続きの支援などもあるとよいかと思います。子ども自身で意見は出しにくいので、保護者の意見となるかと思います。

・基金の使い道や成果を今後伝えていく上でYouTube配信など、多くの人が目にするソーシャルプラットフォームを活用することで、より幅広い層に情報が届くようにすれば、知識も深まり活動に参加したいと思うきっかけとなると思いました。

・具体的な内容を把握していないのでなんともお答えのしようがない状況です。区としての現在の認識も知りたいです。参加する子どもが少ないと思っているのか？募金が少ないと思っているのか？参加企業が少ないと思っているのか？区としてはいくら予算をかけているのか？参加する子ども 企業 募金の目標をお知らせください。

・やみくもに助成先を増やすのではなく、成果の可視化とこどものニーズにあうものとするのが1番重要だと思います

・学校生活以外での経験は、後々の人生で心に残るものがあると思います。なかなか、子どもたちの意見といっても出てこないかもしれませんが、例えばファシリテーターとして、子どもたちと年の近い大学生や、新入社員などの若手に入ってもらい、子どもたちから意見を引き出してもらえたら良い活動につながるのではないかと思います。

- ・子どもたちのための基金だからこそ、子どもたち自身に真剣に考えて活用して欲しいと思うので。
- ・HPで事業内容を拝見したが、クレジットカードを寄付に利用できるようにすべきと思う。
- ・参加は子供の意思。これはいい体験になるよというのは大人のエゴ。子ども主体であるのが望ましい。あと、この活動は本当に「次世代育成」になっているのか。
- ・子供が参加させていただき、大変良い経験になった。寄付していただいた方にもお礼を兼ねてその声を届けたい。

7 より多くの子どもが参加できるよう、対象や周知方法を工夫する

- ・基金の認知度がどの程度か理解できていませんが、まずは対象になる参加者保護者への周知がよいように感じました。当事者意識のある層に届くとよいなと感じます。
- ・区立小学校に通っていますが、どの様な取り組みがあるのかお知らせなどきた事がないと思います。アプリでのお知らせだと印刷物が不要なので簡便かと思います。他に公式LINEで情報を流していますか？個人的に、区から情報は公式LINEから得ることが多いです。
- ・問20の選択肢の取り組みはどれも必要なことだと思います。その中で優先順位をつけるなら、まずは、あまねく平等・対等・公正な子どもの参加機会の保障がなされるような取り組みが必須だと感じますので、選択肢「7」と「3」の優先度は高いと思いました。また、次に選択肢「6」と「1」、その次に選択肢「2」と「5」という優先順位がよいかなと思いました。子どもたち自身の権利と保障のためにも意見の反映は重要ですし、基金の成果や効果は短期的なことだけでなく、もっと中長期的なことをより分かりやすく伝えていくと、段々と理解が深まり、価値が認知されて、寄付や参加の重要性に関心を寄せやすくなると思います。
- ・第一に多くの区民に周知すること。家庭に回ってくる回覧板に特集記事が載ることだと思います。頻度も大事で、1月か2月に一度は何かエピソードを載せていただく事が関心を持ち続ける、応援し続けることだと思います。そうして身近になれば、挑戦してみたいと思うお子さんも増えて、活気のある取り組みになるのではないかと思います。
- ・まず周知についてもっと力を入れるべきだと思います。区報は毎月頂いておりますが、そこへの掲載やチラシを挟むこと等が必要かと思います。知っていれば協力する人増えるかと思います。また併せて完結に応募できること少額から参加できること等も押して行ってほしいです。
- ・子どものイベント参加にあたり、情報収集能力の高い親かどうか問われるなと感じている。（地域のイベントに参加している子はいつも同じだったりする。親の意志での参加になる。）子ども自身に情報が行き渡り、子ども自身が参加表明できるような仕組みが良いと思う。
- ・小中学生の場合は保護者が制度に関心がないと参加する機会を逃してしまうと思う。学校や学童などを通して広告をするアナログ的な方法も良いのではと思う。

・自身が対象範囲外なことも関係しているかもしれないが、このような区の実組自体を知らなかった。また、周知についても、自身から情報を取りに行かない限り、自然と触れることは難しいだろうと思っている。ただし、活用対象者であれば、情報を知りたいと思うと感じるので、周知方法の工夫次第では、この実組自体が活発化するのではないかと思った次第です。最近では西荻窪マイロードのネリオのこみちが目立っていて、子どもと関係なくても立ち止まることがあるので、ああいった場所も良いかもしれないと感じました。

・「7」実施報告書をみるとどの企画もととても良いと思う。しかしあまり多くの子が参加しているようにはみえない。科学実験、大使館訪問、プロに学ぶ吹奏楽など大勢で参加できるものは学校で正式に希望者を募集して参加時は学校単位で集団行動してはどうかと思った。多くの子供が参加するとなると資金の確保が必要となるので個人からの寄付では心もとなく企業から安定的に寄付をしてもらう事が重要。区報やホームページなどで基金事業の紹介を何度も行い、企業名や寄付額(〇〇円、〇円～〇円等区分けして)を目立つように掲載するなど企業側のメリット&辞めにくくする事も考慮が必要。また、寄付金額が低調であれば残念ではあるが、小笠原や自治体交流など費用のかかる少人数のものは止めて多くの子供が参加でき家庭単位ではできないことを優先してやっていくべきだと思います。

・このような取り組みに参加できる子はひと握り。意識が高く、ある程度裕福でやる気がある子に限られると思う。どのように選抜しているのかはわからないが、多くの子供に、公平にチャンスがあるようにしていただきたい。その点で、小学生の体育館使用が無料になったのは、とても良かった。さまざまな施設で、区内者利用と区外の方の利用の代金をかえるなどして、財源を確保するのも1つの案として良いかもしれない。体育館の使用は区外の方がとても多いので。今回、YouTubeなど見て理解を深めることができた。子供達がよく見るインスタなどにも短い投稿があっても良いと思う。見る機会が多いと身近に感じる。子供達にとっても貴重な経験になるので、続いてほしい。

・現在の使い道は特定の一部の学生の参加が多いと思います。制度の名称である杉並区次世代育成基金というように区としてなにを次世代に希望するのか具体的に分かりやすく説明が必要だと思います。ただ遠くに出向いて交流して終わりではなくきちんと目に見える成果が必要であると同時に次世代に事業をつなげていくことだと思います。スポーツしかり、学術的なこと等、多く広く対象者を募り、一人でも多くの若者に挑戦する機会を与えるための資金にしてもらいたいと思います。

・公立の学校に通うお子さんと私学に通う子どもの情報格差が激しく、私学に通う子どもはどのように地域の情報を得ることができるのか、公平に周知活動をしてほしいです。

・小笠原や海外での体験は良いことだと思いますが、募集人数が少ない。民間団体での活用は、団体の方向性？に偏りがあるような気がする。民間団体での成果がよく分からない。募集人数に対して応募人数がどれ位いたのか、告知してほしい。

・基金のことを知っている一部の人だけでなく、知らない人も含めてなるべく多くの人が利用できるとよいと思いました。

- ・少ない人数のみの参加だと、知っている人の間柄しか広まらなさそう。より人数を増やしてたくさん参加できることで、多くの人に知ってもらえると思う。
- ・現在の対象者は、問5から判断するに、小学生・中学生・高校生だと思いますが不登校、中退、フリースクールに通っている子どもにも情報は届いているのでしょうか。小学生・中学生・高校生は学校を通じて周知することができますが、周知の網から漏れる子どもを減らせるよう、工夫が必要だと思いました。
- ・情報が確実に対象者に伝わっていない可能性があるため。
- ・このような育成基金の存在は初めて知った。啓蒙が必要。基金を利用した子どもの成果、どのくらいの年収の世帯が利用しているのか、収支の公表など、区民に明らかにする必要があると思う。
- ・小中学生が対象となっているので、年少からでも参加できるようなものがあれば対象年齢が下がる分、さらに多くの人に関心が得られるのではないかと思います。ただ、区だけでは限界があると思うので、大手企業も協力できるようなものがあればいいなと思いました。今、LINEで一時保育・一時預かり施設の検索予約サービス事業者を登録していますが、そこは複数の鉄道会社などが協力してイベントを開催しています。活動状況を区の公式LINEやSNSでも取り上げることで、若い世代にも興味を持ってもらえるのではないかと思います。広報すぎなみで次世代育成基金を知りましたが、友好都市交流事業かなと思っていました。あまり取り上げられていないので活動状況がわかりませんでした。そして、寄付金控除になるとこのアンケートで知り、今後ふるさと納税が厳格化するため、この基金に寄付する人が増える取り組みをすぐにしなければいけないのではと思いました。
- ・特定の子どもだけでなく、広く一般の子供にも開かれた制度にして欲しい。
- ・より、多くの子供が参加できるように告知を徹底してほしいです。

その他

- ・今回、取り組みをはじめて知りました。簡単に杉並区のサイトを見て回りましたが、概要が把握しきれいていません。杉並区サイトでの編集や表現で伝わりやすくてできる余地は多分にある一方で、区のウェブサイトのフォーマットでは端的に訴求することに限界があるのでは…とも感じました。そもそも「区のサイトまで見に来る」はそれ以前に発見→興味を喚起された後だとも思いますし。自身でいうと「子供を持たない選択をしたからこそ次世代に貢献したい」という課題意識は持っているものの、その手掛かりがない（積極的に調べるほどではない）ので、今回をきっかけに本取り組みへの関与を前向きに検討しようという気持ちになりました。潜在的にこうした思いを持っている区民は一定数いると思われるので、「認知してもらおう」に重点的に取り組む意義があると感じています。
- ・基金の使いみちや成果の情報発信を増やす（量・頻度・媒体）
- ・次世代育成基金そのものをもっと周知する。

・ウェブサイトから過去の実施報告書を拝見しました。交流会やイベントがこの基金事業に支えられて実施されていたこと、これほど長い歴史があることなど初めて知ることばかりでした。自分も今は成人しましたが、二人の子供を杉並区で育てた親ですので、問20でも意見していますが、イベント＝基金であること、それを各世代の住人が自分ごとに考えられれば、参加者・支援者とも増加し、意識が高まると感じた次第です。

・区民が自分ごと化できるような情報提供や周知方法を検討してほしい。

杉並区次世代育成基金：<https://www.city.suginami.tokyo.jp/s059/1469.html>

こちらのページがどの程度閲覧されたことがあるかを確認するところからかなと思います。

⇒閲覧数が多いのであれば「閲覧はされるけど寄附されない」「閲覧はされるけど申請される団体が少ない」という具体的な課題になると思います。

といった具体的な課題を明確にして進めるのが良さそうに思います。また、「杉並区次世代育成基金」も「自然・文化・スポーツなどさまざまな分野における体験・交流事業への参加を通して、視野を広げ、将来の夢に向かって健やかに成長できるように支援する」ための手段の1つだと思うので、杉並区として実行できる施策が他にはないのか、なども検討してみてもよいと思います。

令和 8 年度 第 2 回
杉 並 区 区 政 モ ニ タ ー ア ン ケ ー ト
集 計 結 果 報 告 書

登録印刷物番号

08-0029(2)

令和 8 年 9 月 発 行

編集・発行

杉並区総務部区政相談課

〒166-8570

杉並区阿佐谷南1-15-1

TEL03-3312-2111(代表)



杉並区の公式ホームページ

再生紙を使用しています